

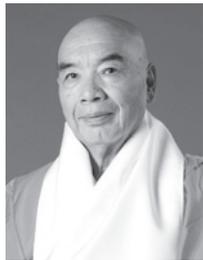
全国協議会 ニュース

2023年1月1日発行 第365号

発行所：特定非営利活動法人
全国骨髄バンク推進連絡協議会
〒101-0031 東京都千代田区東神田 1-3-4KT ビル 3階
TEL：03-5823-6360 FAX：03-5823-6365
発行責任者：田中重勝 題字：仲田順和 (会長)
https://www.marrows.or.jp E-Mail:office@marrows.or.jp

新年のご挨拶

2023年が明けました。今年がより良い年となりますよう、当協議会の会長、理事長、関係機関の方々からいただきました年頭のご挨拶をお届けします。



全国骨髄バンク
推進連絡協議会
会長

仲田 順和

(真言宗総本山・
醍醐寺座主)

新年明けましておめでとうございます。

昨年を振り返ると、2022年2月から1カ月半にわたって行われたクラウドファンディング「白血病患者さんに移植費用を届けたい。きち子基金継続にご協力を！」に対して、多くの方から多額のご支援を頂くことができたという印象的なことがありました。一時は継続を断念することも覚悟しましたが、皆さんの温かいお気持ちにより、移植患者さんを救う基金の継続が実現したことはとても大きな意味があります。そしてそのお気持ちは今年の2月に達成が予想される「非血縁者による

骨髄・さい帯血移植5万例到達」という尊い実績につながっていきます。30余年にわたるお一人お一人の善意が積み重なり合うことにより、この偉業達成が可能となります。一個人が真摯に取り組むことはもちろん大切ですが、一人がどんなに頑張っても限界があります。一人一人の命のつながり「縁(えにし)」を大切にすることにより、1+1が3にも4にも、場合によっては10にもなります。これからも支援者・ボランティアの皆さまを始めとした患者さんを取り巻く関係者全員が力を合わせて患者さんのために活動に取り組んでいきたいと思っております。

協議会ニュースを通じて、この挨拶をお読みいただいている皆さまは、「人を想う気持ち」が豊かな方々です。そんな皆さまにこそ、また1年幸せな年を重ねていただきたいと思います。

今年もよろしく願い申し上げます。



骨髄・さい帯血
バンク議員連盟
会長
衆議院議員

野田 聖子

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

新型コロナウイルス感染症が収束する気配が見えない中であっても、献血やドナー登録にご尽力いただいているボランティアの皆さまに感謝申し上げます。

昨年開催された議員連盟総会では、ドナーを待ち、闘病を続けるご子息をもつお父様からお話を聞かせていただきました。患者とご家族がおかれている状況を伺い、改めてドナー登録推進・骨髄提供者の環境整備の必要性を痛感いたしました。

若年層ドナー登録者拡大やドナー休暇と助成制度の推進、コーディネートシステムのDX化促進などにより、患者さんを1人も取りこぼすことが無くなるよう、皆さまが日頃真摯に取り組まれている活動を後押しできるよう取り組んでまいりたいと思っております。最後になりますが皆さまの今年一年のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

市民公開講座が開催されます 是非ご参加ください

第45回日本造血・免疫細胞療法学会総会において、骨髄バンク・さい帯血バンク移植5万例達成記念イベントとして市民公開講座が開催されます。

東海骨髄バンクを介した非血縁者間移植の第一例の方をはじめ、その時その時での最新の技術で命をつないでこられた患者さんにご登壇いただきます。その革新をもたらした医療・治療について理解を深め、血液疾患診療の未来の姿を学びます。

特別ゲストは、シンガーソングライターの岡村孝子さん(さい帯血移植経験者)です。ぜひ、多くの皆さま方のご参加・聴講をお待ちしております。

日時：2023年2月12日(日) 15:40~18:00

会場：名古屋国際会議場1号館 センチュリーホール

開催形式：現地開催+LIVE配信

第1部 「造血幹細胞移植今昔物語」

第2部 「岡村孝子さんご登壇！」(対談のみで歌唱はありません)

※事前申込制です。詳細は学会総会ホームページをご確認ください。

※オンデマンド配信も予定されています(2月28日~3月31日)。



学会総会 HP

骨髄バンクの最新情報をお知らせする

骨髄バンク NOW

《MONTHLY JMDP(12月15日発行)より抜粋》

■日本骨髄バンクの現状(2022年11月末現在)

	10月	11月	現在数	累計数
ドナー登録者数	3,840	3,072	543,957	911,699
患者登録者数	201	184	1,664	65,501
移植例数	89	79	—	27,215
	(16)	(27)		(1,745)

※()内は末梢血幹細胞移植の実施数(国際間含む)

■11月の区分別ドナー登録者数

献血ルーム/711人、献血併行型集団登録会/2,219人、集団登録会/79人、その他/63人

■11月の年齢別ドナー登録者数(現在数)

10代 3,781人/20代 87,157人/30代 136,373人
40代 218,721人/50代 97,925人

■11月の20歳未満の登録者334人

■11月末までの末梢血幹細胞移植(PBSCT)累計数：1,694件(国内ドナー→国内患者)

(注)数値は速報値のため訂正されることがあります。

新年のご挨拶



公益財団法人
日本骨髄バンク
理事長

小寺 良尚

謹んで新年のお祝いを申し上げます。骨髄バンクは設立から31年が経ち、ドナー登録者数は54万人を超え、移植数は累計で2万7千例に達しました。これらは貴協議会をはじめ、関係各方面の方々のご支援の賜物

でございます。この場をお借りしまして深く感謝申し上げます。

2023年はドナー登録時におけるスワブによるHLA検査の試験的な導入について、造血幹細胞提供支援機関である日本赤十字社と共に進めて参りたいと考えております。

また若年層ドナー登録者の増加や登録ドナーへのリテンション活動のため、SNSでの情報発信をより一層効果的に活用できるよう取り組んで参ります。

新型コロナウイルス感染症の流行や

血縁者間のハプロ移植等移植ソースの多様化に伴って骨髄バンクでの移植件数は減少傾向にあります。一人でも多くの患者さんが適切な時期に造血幹細胞移植を受けられるよう、引き続き様々な施策を推進し、積年の課題である若年層ドナー登録者の増加、コーディネート期間の短縮等に一層努めて参ります。今年もより一層のご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



日本赤十字社
血液事業本部長

高橋 孝喜

2023年の新しい年を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

日本赤十字社は、苦しんでいる人を救いたいという思いを結集し、いかなる状況下でも「人間のいのちと健康、尊厳を守る」という使命のもと活動しております。血液事業においては、造血幹細胞移植に関わる造血幹細胞提供

支援機関及び臍帯血供給事業者として関係者の皆様方と連携し、造血幹細胞事業を推進しております。

骨髄バンク事業では、喫緊の課題である若年層への普及啓発をはじめ、骨髄ドナー登録後に住所不明を理由にコーディネートに進めない登録者の方々への対応など諸課題の解決に向けて関係団体の皆様方と協力しながら取り組んでおります。

特に住所不明者の対応については、公益財団法人日本骨髄バンクと協力してショートメールを通してご本人に個人情報更新を意識づけることで住所不明者の削減に取り組みました。この

ことは登録された皆様にとって、骨髄提供の意思継続を再認識していただくとともに、より多くの患者さんに骨髄移植の機会を提供することに繋がるものと認識しております。

引き続き、一人でも多くの患者さんの移植医療に貢献できるよう、貴協議会をはじめ関係団体の皆様と協力し、造血幹細胞提供に関わる皆様の想いに寄り添いながら事業を進めて参りますので、今後ともご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

最後に、貴協議会の益々のご発展と皆様のご健勝を祈念いたしまして新年のご挨拶とさせていただきます。



全国骨髄バンク
推進連絡協議会
理事長

田中 重勝

明けましておめでとうございます。

日本骨髄バンクは設立から31年が経過して、2万7千例あまりの骨髄移植が行われてきました。さらに、さい帯血バンクによる移植件数を合わせると、間もなく5万例に達することとなります。このように、多くの患者さんが命を繋ぐことに関わられたことを、喜ばしく思うところです。

特に移植後数十年を経過された方にとっては、病名告知された当時では想

像もできない程の年を重ねることとなり、感謝の思いでおられる方がいる反面、心に大きな穴が空いたままだと言われる方もおられます。こうした患者さんの中には、移植後長く生かしていただき毎年感謝をするが、こうして生きていることを最も伝えたい方に伝えることができず、このままでよいのだろうかと思ってしまう日々を送っておられる方もおられるのです。

また、移植後の後遺症に苦悩される方もおられますので、医療関係者の皆様におかれましては、移植後の晩期後遺症についての研究を精力的に重ねられており、より良い移植を探求し続けておられます。

この様に移植後の生活の状況も視野においていただいていることから、

移植が終着点ではなく、その後も心豊かな日々を過ごすことが出来ることを目指す骨髄バンクを求め続けてまいりたいと思います。

いずれにしても、ドナーさんがいていただかないと始まりません。次から次へとコロナの波が押し寄せてきていますが、そうした中でもドナー募集にご苦労をいただいています全国のボランティアの皆様とともに、すべての患者さんの救命とQOLの向上を祈念してまいりたいと思います。

全国協議会といたしましては、全国各地のボランティアさんとともに、患者さんのための活動を推進してまいりますので、引き続きのご支援ご協力をさらにお願申し上げます。

滋賀県の語りべ活動報告



大阪赤十字看護専門学校での講演(片岡)

11月18日(金)に「滋賀県立大学」で骨髄バンク語りべ講演会を行いました。講演者は全国協議会理事の浅野祐子さんです。

浅野さんは当時マラソンが趣味で体力にとっても自信があったにもかかわらず、突然の「骨髄異形成症候群」という診断を受け、治療は骨髄移植しかないと言われ、医師から告げられてしまいます。いきなり人生のどん底に落とされた当時の思い、そして医師からは余命1年と言われましたが、とにかく治せると言ってくれる医師を探すため奔走されました。そしてやっと信頼を得る医師に出会えた事で、とても前向きに治療に進まれた心の持ち様などは、聞いて

いた私は浅野さんご自身の生きる力強さを強く感じました。そして当時小さな子どもさんを抱えてらっしゃっていて、子どもたちのためにもなんとか生き抜くという強い思いを聞かせてもらえました。

今回は主に人間看護学部の学生さんでしたので普段看護の勉強に励んでいる有志の学生が聞いてくれたこともあり、意識が非常に高く、今後の学生にもつながっていく非常に有意義な講演会となりました。

また、翌週の24日(木)には「大阪赤十字看護専門学校」で看護学生3年生32人の授業の一コマとして90分間、浅野祐子さん、片岡智一が語りべ講演を行いました。私からは今の骨髄バンクの状況・今後の課題についてお話ししました。現在ドナー登録者は増えていますが、提供率の低下に伴い移植件数が減少しています。コーディネートに時間がかかり患者さんの適切な時期に移植を受けられない等、問題

が起きていることなどを話しました。

また、浅野さんは闘病されて感じた思い、家族との関わり方での悩みなどの他、看護を受けられて感じた思い、そして長きにわたった入院生活から退院した際に看護師さんに抱いた感謝の思いをお話しいただきました。

こうした活動が特に若い方の共感を呼び、考える一助となれば幸いです。

(滋賀骨髄献血の和を広げる会
片岡智一)

骨髄バンクチャリティ麻雀大会 2022in 姫路 開催



骨髄バンクチャリティ麻雀大会実行委員会のルーラー山口(日本プロ麻雀協会：写真右)です。

このイベントは、私自身が白血病を患った際に命を取り留める手段となった骨髄バンクを広く知ってもらうとともに、今も闘病中の仲間たちにエールを送りたいという思いから、2005年以降毎年東京で開催していましたが、コロナ禍の影響を受け、ここ数年は残念ながら開催を見送っていました。

そのような中、長年当イベントにご支援いただいております兵庫県姫路市にある麻雀荘姫路ビッグドラゴン様からお声がけいただき、約3年ぶりとなる『骨髄バンクチャリティ麻雀大会』を12月3日(土)に開催することができました。

大会参加費は無料、参加条件は寄付(金額は自由)していただくこと。さらに人気女流プロの和久津晶プロ(日本プロ麻雀連盟)、羽月プロ、楓愛プロ(ともに日本プロ麻雀協会)の3人が一緒に盛り上げてくれたことにより、会場は参加者の笑顔でいっぱいになりました。

参加者の皆様、ご協力くださった皆様、本当にありがとうございました。今後も引き続きよろしく願いいたします。

ボランティアフェスティバルに参加して



福岡市長(右)小笹(左)

11月23日(水・祝)、奈良県香芝市で約60のさまざまな活動を行っている団体が一堂に会し「ボランティアフェスティバル」が開催されました。前回まで、コロナ禍の影響で規模を縮小していたということもあり、今回は非常にたくさんの人出でした。

そこで「なら骨髄バンクの会香芝支部」も活動紹介をさせていただきました。一人でも多くの方に「骨髄バンク」について正しく知っていただくことが目的であり、普段の献血会場での活動ではなかなかお会いできない方ともお目にかかることができました。

足を運んで下さった方の中に、血液の病気を経験された方がいらっしや、ご自身の闘病経験について語りべとして講演いただけるとのことでした。私たちの普及活動の幅が広がる可能性が高い、大変うれしいお申し出でした。他にも血液疾患の方がお見えになり、お話を聞かせていただき病気経験の無い私にとって勉強になりました。

また、福岡憲宏市長もお越し下さいました。福岡市長は骨髄バンクのドナー登録者でもあり、献血車が市役所に配車される日には毎回公務の合間を縫って献血もされている方です。

香芝市は、奈良県内で早期に「骨髄ドナー助成制度」が設けられた自治体でもあり、福岡市長が献血や骨髄バンクに関しリーダーシップを発揮されています。そのため、市民や職員の皆さんも理解がある方が多く、気兼ねなくドナー登録ができるのかなという印象を持ちました。

(なら骨髄バンクの会 小笹晃子)



初となる千葉県主催の「ドナー登録説明員養成講座」

長年千葉骨髓バンク推進連絡会（千葉の会）は、千葉県による「ドナー登録説明員養成講座」開催を要望してきましたが、11月30日（水）、初めて県主催の養成講座が千葉県教育会館で開催され、7人の受講者が参加されました。受講者は、ご家族・親戚が患者さんの方が3人で「家族が移植を受けた。骨髓バンクの輪を広げたい」「親戚がドナーを探している」「7年前に娘が白血病を罹患。残念ながら亡くなったが、他の患者さんのため何かできないか考えた」、ドナー体験者が2人で「2022年2月末にドナーになり



骨髄提供をした。ドナーをもっと増やしたい」「2017年に登録。ドナーになり骨髄提供をした。その後更に適合の連絡があったが、提供まで至らなかった。骨髓バンクを支援したい」、日赤奉仕団の方が1人「普段から献血を支援しているが更に骨髓バンクを支援したい」、東京雪祭に参加された方が1人「前に東京雪祭に参加したがドナー登録会に関心があった」という方々で、皆さん参加動機に重みがあり、今後説明員資格を取られた後、長く活動いただけることが期待されます。

講師は、日本骨髓バンク1人の他千葉の会から私を含め4人が担当しまし

た。日本骨髓バンク講師と私の座学講義の後、ロールプレイングを行いました。皆さん熱心に実技をされました。

千葉では従來說明員資格取得希望者が出た場合、私が研修会を企画して、津田沼献血ルームでの献血併行型登録会等で座学を行い、その後千葉の会の方にも参加いただきロールプレイング実技を行って来ました。2020年のコロナ前は年に1～2人の受講者でしたが、コロナ後は希望者が増え、ここ3年は講習会を16回開催し20人の方が資格を取られました。

今後は県主催の養成講座を中心に説明員資格取得希望者の講習を行い、千葉県内の説明員の増加を図り、最近は何月に30～40回開催している献血併行型登録会に対応し、かつ説明員を1会場2人体制としたいと考えています。

（千葉骨髓バンク推進連絡会 会長 梅田正造）

3年振りにチャリティーコンサートを開催

毎年11月になると、秋の風物詩として、東京の会主催のコンサートを開催してきました。ヴァイオリニストの三戸素子さんとチェリストの小澤洋介さんがチャリティーとして開催されている演奏会です。お二人の共通の親友である金井いずみさんが白血病のためお亡くなりになって30年近く経ちます。闘病中に骨髓ドナーを一人でも多く登録してもらいたいとの思いから、お二人が骨髓バンクを支援するチャリティーコンサートを企画してくれ、東京の会ははじめ千葉・埼玉・神奈川のボランティア団体がピアノ三重奏チャリティーコンサートを主催してきました。2019年に27年続いたコンサートを開催した後、新型コロナウイルスの感染拡大が始まり、この2年間は人の集まるイベント自粛要請のために開催できませんでした。

2022年に入り感染拡大も落ち着き、ウィズコロナとなって大規模会場でのイベントも復活してきたことから、秋のチャリティーコンサートを企画したいと三戸さん・小澤さんに相談し、快諾を得て開催する運びとなりました。

ただし会場となる本郷の求道会館では、感染防止策として入場者を定員の半分にする運営をおこなっており、60人を上限にして集客しなくてはなりません。コンサート実行委員会で運営方法を検討し、メールでの事前予約制として当日の受付で入場料を集金することにしました。万一爆発的な感染拡大で中止を余儀なくされた場合にも、メールでお知らせさえできれば中止の案内を確実に届けられます。コンサートは11月23日（水・祝）なので、10月末で開催の可否を判断することにしましたが、他のイベントも順次開催されていますので、東京の会でもピアノ三重奏コンサート響の開催を決定しました。

当日は、あいにくの雨模様で、会場前には傘を差しながら入場を待つ人がちらほら現れたため、早めに開場しました。受付での現金授受も大きな混乱もなく、3年振りのコンサートが始まりました。東京の会では初めてヴァイオリン、チェロがそれぞれ独奏するプログラムも演奏され、求道会館の良く響く音響の中で素晴らしい演奏を堪能することができました。常連の方も大勢参加してくれて、入場者数は定員いっぱいの60人でした。今年こそこの素晴らしい生演奏を定員制限なしに聞きたいと強く思いました。

（骨髓バンクを支援する東京の会 若木 換）

心からのご寄付に感謝申し上げます ● 11月21日～12月20日(敬称略)

<p>●一般</p> <p>チャリティー麻雀大会 in 姫路</p> <p>現金 94,523円</p> <p>野本 義博 現金 100,000円</p> <p>櫻井 成行 現金 10,000円</p> <p>早瀬 昭一郎 現金 6,000円</p> <p>飛田 行康 現金 10,000円</p> <p>三品 雅義 現金 10,000円</p> <p>細川 和広 現金 1,000円</p> <p>匿名 現金 1,000円</p>	<p>●佐藤さち子造血細胞移植患者支援基金</p> <p>塩谷 泰人 現金 1,000円</p> <p>筒井 肇 現金 1,000円</p> <p>●募金箱</p> <p>株式会社 クスリのアオキ 現金 1,119,848円</p> <p>株式会社 マルト商事 現金 45,639円</p> <p>株式会社 ナルックス 現金 25,162円</p>	<p>株式会社 フクヤ 現金 104,843円</p> <p>札幌北検病院 現金 2,390円</p> <p>全国協議会事務所 現金 5,563円</p> <p>●つながる募金 現金 15,503円</p> <p>●キモチと。 現金 10,223円</p>
--	--	--

活動資金の支援をお願いします 銀行口座 三井住友銀行 新宿通支店 郵便振替口座 00150-4-15754
普通 5666655

□座名：特定非営利活動法人 全国骨髓バンク推進連絡協議会